

稲ホールクロップサイレージ(WCS)栽培・利用研修会を開催

稲の穂付茎葉をロールにしてサイレージ化する稲WCSは、乳用牛を中心とした自給飼料として期待されており、専用大型機械の導入が進んだことから、今年度は108 haで生産されるまでに増加しています。

当センターでは、多収栽培と高品質な稲WCSの生産を目指し、専用品種である「たちすずか」の実証展示ほを舞鶴市に設置し、10月4日に畜産農家、耕種農家、関係機関の26名の参加を得て現地研修会を開催しました。

参加者は高糖分で消化性の高い「たちすずか」の栽培法の講演や実証展示ほを熱心に見学し、感光性等の品種特性や田植時期等の留意点を質問するなど、今後の活用についての意欲が伺えました。当センターは今後とも稲WCSの高品質化に向けた活動を支援していきます。



「たちすずか」収穫期のほ場見学



栽培法の講演